

FP Topics = 投資信託の具体的な知識 = 2022年6月号

= One's impressions =

全国的にも梅雨の季節を迎えましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。私事ですが、ここのところ所用に追われ何かと忙しく、長らく休んでいないことに気が付きました。儲からないのに忙しいという・・・自営業の悲しいところでもあります。

少し疲れがでていましたので、一日完全休養しようと思い立ち、朝から頭を空っぽにしてぼ～っとしていました。午後になり、そうだ！温泉行こう！と近所のスーパー銭湯へ行ってみました。

けっこう混雑していて、ちょっとゆっくり出来そうにないな～なんて物思いにふけていました。

すると、隣にいた30代とおぼしき2人組が、積立投資についてあーでもない、こーでもないと話始めたのです。あーーーーっ気になってゆっくりできないと思い、他の湯舟に移りました。あーゆっくりしよっ！と目を閉じたその時、今度は住宅ローンの話が声高に聞こえて来るのです。

頭の中でチーンと音が鳴ったような気がしました。

生活者にとって、将来のお金や住まいのお話は普遍的なんだなーとあらためて考えさせられました。

古い感覚では、プライベートなお金の話を、湯舟に浸かりながら友人と話す機会はなかったと思います。お金の話なんて生々しくて気が引ける感じだったのではないのでしょうか。

ライフプランニングの思考が一般に浸透してきたのかも知れません。今年度から高等学校の家庭科の授業でも、ライフプランが必須になっているようです。十代の若い世代から、お金についての基本的な知識を学んでもらうことは有意義だと考えています。書き始めると長くなってしまいました<m(__)m>

= 投資信託の選び方 =

投資信託協会が公表している統計資料によると、2022年5月時点の公募投資信託（誰でも購入することができる）のファンド数（本数）は5,932本となっています。約6,000本の中から、効率の良い適当なものを選ぶのことは、至難の業と言えるのではないのでしょうか。

金融庁では、長期運用（つみたてNISA）に適した投資信託商品（NISA対象商品）を厳選しています。下記厳選された商品の中から、いくつかの条件を適用し選択することで、効率的な投資を実現することができますと考えます。

つみたてNISA対象商品の分類(2022年4月26日時点)

つみたてNISA対象：213本

出典：金融庁

		国内	内外	海外
公募投信	株式型	44本 (31本)	15本 (2本)	50本 (31本)
	資産複合型	5本 (2本)	90本 (36本)	2本 (1本)
ETF		3本 (0本)	—	4本 (0本)

※()内の数字は、届出開始当初(2017年10月2日)の商品数

証券会社に口座を開設し、つみたてNISAサイトへアクセスすることで、対象商品を確認することができます。長期積立分散投資に適した条件をいくつかご紹介してみます。

- ✦ 分配金は受取らない
- ✦ 低コスト
- ✦ インデックス型とアクティブ型
- ✦ リスクの取り方



＝長期積立分散投資に適した条件＝

【分配金は受取らない】

I 投資信託で運用をする場合、利益を出す方法としては2種類あります。購入時より基準価格が上昇した時に、投資信託を売却（解約）して差額を『譲渡益』とする方法。

⇒長期投資には向きません。

II 運用会社は決算時に投資家に対して、総資産の中から『分配金』を支払います。分配金を受け取ることで、運用資産は分配金の分だけ減少してしまいます。

⇒分配金は受取らず、投資元本に再投資する。

【低コスト商品を選ぶ】

投資信託の運用では、コストが伴います。そのおもなコストは下記3つです。

《販売手数料》

購入時に販売会社に支払う費用です。つみたてNISAではノーロード（販売手数料無料）となっています。

《信託報酬》

投資信託の運用にかかる費用です。年利率の1/365を保有残高から毎日差し引かれます。⇒年率0.5%～2.5%が目安となっていますが、毎日差引かれることからバカになりません。できれば安い商品を選ぶことをお勧めします。

《信託財産留保額》

売却する際に投資家が負担する費用です。

長期積立分散投資（つみたてNISA）に適した条件のうち、2つをご紹介しました。

❖ 分配金は受取らない

分配金を元本に組み入れることにより、保有口数が増加します。長期積立による複利運用がよりいっそう効果的になります。

❖ 低コスト

つみたてNISAで採用されている投資信託商品群では、低コストの商品が厳選されています。そのなかでも信託報酬の年利率にはバラツキがあるようです。運用期間中は毎日差引かれる費用ですから、できれば低利率のものを選ぶことをお勧めします。



～今月の山便り～

あまりの足の冷たさに我慢できず、足元を確認してみると頭より低く設営した足の部分が浸水していました。金魚を数匹飼えるくらいの浸水で、ふくらはぎまで被害を被っているのです。ん～～どうするか～と考えを巡らせますが、天井からは絶え間なく雨が滴っています、シュラフから出るのも億劫です。

よくよく考えてみると、この雨の勢いではテントの水をかき出してもあまり効果はないように思えます。そうだ、足を折り曲げて丸まって寝ればいいんだと思いつきますが、いい大人がずーっと丸まって寝るのはちょっとしんどいのです。

悶々としていると、ふっとあることを思い出しました。ずっと以前にNHKかどこかの局で、北欧の漁師さんの特集していた番組です。北欧の漁師さんは、寒い冬の海でもメリノウールのセーターを着て漁に出ていたという内容でした。メリノウールは水に濡れても暖かいということ思い出したのです。

勇気を振り絞って・・・シュラフを出ることを決意しました。枕にしている着替えの袋を探り、まだ浸水していないお宝、メリノウールの厚手の靴下を履いたのでした。履き替えた時のその暖かさにはうっとりしてしまいました。が、再び足が全面的に水没するのにそんなに時間はかかりませんでした。

しかし、北欧の漁師さんは嘘をつきません。晩秋の金魚の水槽でも大きな効果を発揮してくれたのです。メリノウールは寒さを感じるどころか、暖かいようにも感じたのです。気のせいかもしれませが・・・状況的に脳がそう感じるように命令したのかもしれない。山で過ごす夜を少しでも快適にしたいという想いもあったのでしょうか。

気分的にも少し落ち着いたので、少しでも眠って明日に備えようと目を閉じました。少しウトウトしては起きる・・・を繰り返していました。うつらうつらしていると、ふっと何かの気配を感じ、目を開けました。テントのすぐそばに何かがいるようです。

気配を悟られないよう、息を殺して外の気配をうかがいます。何かがゆっくりテントの周りを廻っているようです。地面を踏む音やその重量感から推測すると“熊”ではないようです。この優雅な足運びは“鹿”だろうと自分に言い聞かせるのですが・・・